●○○　第１８３回　定例会（あすかエネルギーフォーラムとの共同企画）●○○
テーマ　：福島第一原子力発電所、福島復興本社の現状と今後の取り組みについて
講　師　：東京電力ホールディングス株式会社代表執行役副社長・福島復興本社代表
　　石崎　芳行様
日　時　：６月１８日（土）１４：００～１７：００
［内　容］Ⅰ：福島第一原子力発電所の廃炉作業の現状と今後の取り組みについて
　　Ⅱ：福島復興本社の取り組みについて
　　Ⅲ：福島復興への責任を果たすために
　　Ⅳ；浜通り地域の状況
最初に、講師から取り返しのつかない事故を起こした事業者として、誠意ある謝罪がなされた。
Ⅰ：はじめに、福島第一原子力発電所の１号機から４号機までが、地震による津波により冷却電源を失い、２号機を除く３基が水素爆発を起こし破壊された建屋の姿を撮影画面にて説明された。
設備の被害状況として外部電源・非常用ディーゼル発電機・常用高圧電源盤等の電源破壊状況が再認識された。
（１）冷却停止状況は圧力容器底部温度２２℃～２８℃格納容器内２２℃～２９℃燃料プール２１℃～２４℃の値である。
（２）現状と課題として、１号機、原子炉建屋上部及びプール内がれき状況の把握、建屋カバー撤去期間中の放射性物質の飛散防止。２号機、原子炉建屋内の線量低減対策。３号機、線量が高いため、線量低減対策を遠隔操作重機で安全かつ着実に実施。４号機、燃料取り出し完了（２０１４年１２月２２日完了）
（３）廃止措置等に向けたロードマップ全体イメージ、燃料デブリ取り出し（１号機～３号機）１０年以内に開始。廃止措置終了まで（３０年から４０年）最難関の課題。
（４）原子炉の冷却（循環注水冷却システム）、多核種除去設備により１５年５月に汚染水（ＲＯ濃縮水）の処理完了
（５）汚染水問題、海域モニタリング状況
（６）汚染水流失への対策として３つの方針として汚染源を取り除く・汚染源に水を近づけない・汚染水を漏らさない対策を実施。建屋山側の凍土方式の設置、海側遮水壁の建設、汚染水浄化対策として現行ＡＬＰＳの増設と高性能ＡＬＰＳの設置と試運転。
（７）４号機使用済燃料プールからの燃料取り出し完了（２０１４年１２月２２日）
（８）福島第一原子力発電所周辺の空間線量率２０１１年４月：２０１６年６月では最高値２４７（単位:μＳＶ/ｈ）から２．６（単位:μＳＶ/ｈ）へ低減されている。
（９）１号機建屋カバー解体・ガレキ撤去時のダスト飛散抑制対策
（１０）作業員確保・労働環境改善に向けた取り組み。給食センターの稼働により暖かい食べ物が供給され成果が顕著に表れ出している

Ⅱ：Ｊヴィレッジを活用して、福島復興本社の設立・組織体制３５００人～４０００人を確立。富岡町への移転・体制強化・ホールディングカンパニー制移行後も福島への責任を果たす体制整備。
福島復興本社の主な取り組みと計画として、産業基盤や雇用機会の創出・世界最新鋭の石炭火力発電所の設置。賠償の取り組みとして一万人態勢で取り組んでいる。賠償・除染・復興への取り組みを通じて福島への責任を全うし、地域復興に貢献することを確実に実行する。
［所感］
事故の発生から廃炉作業・復興への取り組みについて詳細な説明がなされ理解が深まった。講師は、危機意識の欠落と、原発事故は起きないという傲慢な発想が東電社内に蔓延していたこと。トラブル隠しが発覚するなど、隠蔽体質があったことについて。事業社内では稀有な存在として、警鐘を鳴らしてきたことを自負することなく、事故を起こした事業者の一員として、全知全能を傾け、廃炉と復興に責任を果たす。その覚悟のほどが伝わってきたことには、心動かされました。

報告者　２６期　岸　宣忠